

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3090100136		
法人名	有限会社 西日本マインド		
事業所名	グループホーム このみ(さくら)		
所在地	和歌山県和歌山市紀三井寺516-1		
自己評価作成日	令和2年8月14日	評価結果市町村受理日	令和2年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JikyosyoCd=3090100136-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JikyosyoCd=3090100136-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年10月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

①入居者一人ひとりの想いに寄り添った生活支援に力を入れています。 ②入居者の状態に合わせた柔軟な支援を心掛けています。 ③ご家族様が職員に話しかけやすい雰囲気をつくるよう心掛けています。 ④重度化していくご利用者の意思表示や自己決定を重視して声掛けする心がけています。
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは法人理念の下「その人らしい表情をいつまでも大切に」というホーム独自の目標を立て、パンフレットに掲載すると共に月1回の会議の中で話し合い、利用者に寄り添い関わりを大切にしながら傾聴したり個々に出来る事に取り組んでもらう等の支援に努めています。コロナ禍で中断していますが近くの幼稚園児との交流の機会があり、現在は運動会の練習風景等を見て今後の交流の再開を楽しみにしています。介護計画においては利用者と家族の意向にそった暮らしとなるよう家族の来訪時に合わせてサービス担当者会議を開催し話し合い、また計画の評価は毎月会議の中で行い一人ひとりの現状に合った計画となるよう努めています。毎月行うホーム全体の会議に法人代表も参加し、ホームの運営や利用者の状況について意見を出し話し合う機会となっています。
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼時に皆で理念を唱和しています。	法人理念は朝礼時に唱和し、法人理念の下「その人らしい表情をいつまでも大切に」というホーム独自の目標を立てています。理念や目標は事務所入口に掲示すると共にパンフレットに掲載し、毎月行う会議の中で話し合い利用者に寄り添い関わりを大切にしながら個々に出来る事をしてもらったり傾聴する等の支援に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民にボランティアや近くの幼稚園児の訪問などの地元の人々と交流する事に努めています。散歩時は、地域の方々とお話する機会が持っていますが、コロナ禍で2月以降自粛しています。	コロナ禍以前は近くの幼稚園と行事の際に交流の機会があり、併設施設にボランティアの来訪があった際は一緒に参加していました。現在は近所の畑作業をしている方と利用者がゴミ捨等に出た際に話をしたり、近所の方と会った際には挨拶をする等地域の方との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所に気軽に相談して頂けたり、利用者やご家族の声掛けにより相談に来所して頂けてますがコロナ禍で2月以降自粛頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方やご家族の参加のみになっている為、他の方にも参加して頂けるように働きかけていましたが、コロナ禍で実施できていない状況です。	会議は家族や知見者の参加を得て行い、利用者の状況や行事や活動報告、事故報告等を行い相談を受けたり意見交換をしています。現在コロナの影響で運営推進会議の開催を見送っていますが、地域包括支援センター職員の参加が得られるよう開催日時を平日に変更したり、他の事業所の会議への参加や理事長宛てに案内状の送付等働き掛けを行い、今後再開時には参加を得られるよう取り組んでいます。	会議の開催が年に6回出来ていない状況のため今後再開した際には、2カ月に1回会議が行われる事が期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは認定調査時や市役所への書類申請時に関わりを持っていますがその中で、事業所の実情やサービスの取り組みを積極的に伝えていきます。	申請書類等必要に応じて窓口に直接出向き、消毒液やマスクの配布があったり、研修や感染症の注意喚起等はファックスでもらっています。市担当者も出席する地域ケア会議にはケアマネジャーが参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングなどで意見交換し、職員の意識を高めるように継続して取り組んでいます。	年に2回ホーム内で身体拘束に関する勉強会を会議時に行うと共に3カ月に1回行う身体拘束適正化委員会の実施内容を職員に周知しています。転倒が多いため安全に付き添えるようセンサーを使用している利用者がいますが、本人に説明し家族に同意を得て使用しカンファレンスで必要性を話し合っています。玄関やユニット入口は施錠しておらず、外に行きたい様子があれば玄関先で外気浴を行う等拘束感の無いよう支援しています。	

グループホーム このみ(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、着替え等でアザ等の有無の確認しその都度報告し合っています。 ミーティングでの話し合う機会も継続しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や青年後見制度を必要な方がいれば利用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人とご家族が納得されるまで何回もカンファレンスを行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が訪問時に話しやすい環境をつくり、意見苦情等を出来るだけ伺うようにしていますがコロナ禍の影響で現在は来所を自粛頂いています。	利用者から要望を聞き果物等を提供したり、コロナ禍で外出が難しい状況の中外出したいとの希望があれば少人数でドライブに出掛けています。家族には毎月利用者の様子を書いた手紙を送付し、意見は通常面会時や運営推進会議時に聞いていますが、現在は電話中心に聞いています。下肢筋力の維持の要望があった際は訪問リハビリにつなげたり、面会の再開については現在短時間で玄関先での面会を少しずつ行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングを行い職員の意見交換などの交流の場を継続しています。	毎月ホーム全体で会議を行い、会議には法人代表も参加し運営の話や利用者毎の支援について意見を出し話し合っています。日々の中で業務分担等は決まっていますが、利用者の状況に合わせて臨機応変に対応したり物品購入の提案等があり職員の意見を反映しています。食事作りを職員が担当する事になった事や外国人実習生の受け入れ等により人員確保が来ています。新しい職員には随時面談の機会を持ち思いや意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心をもって働けるよう職員の意見や提案を伝えられる環境を作っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのスキルアップに向けて外部研修や法人内での研修の取組を継続しています。		

グループホーム このみ(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じて当事業所のサービスの質を向上させていく取り組みを継続しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では職員が常に寄り添い不安や困りごとを傾聴できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも初期段階の想いを傾聴し共感・共有できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のそれぞれの想いを感じ、必要としているサービスの情報提供を行い利用できるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人とのコミュニケーションを大切にし、信頼できる関係をつくれるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも来所しやすい環境を作り、利用者のご家族との絆を大切にしています。しかしコロナ禍で2月より自粛頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来所持、次に繋がるよう職員が寄り添っていますがコロナ禍で2月より自粛しています。	コロナ禍以前は近所に住んでいた方や孫、親戚等の訪問があれば居室や相談室でゆっくり過ごしてもらえるよう支援しています。また馴染みのスーパーへ買い物に行ったり、家族の協力を得て自宅に帰る際は車椅子の準備等の支援をしています。現在は中止していた家族との面会が玄関先や窓越しに顔を見てもらい少しずつ再開されています。	

グループホーム このみ(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が同席しながら関係作りに努力しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、入院されている利用者の方の面会などには時々行ったりしています がコロナ禍で面会自粛しているのご家族様に電話でお聞きする程度です。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの想いに寄り添う支援を行っています。言葉の理解力が困難そうな方にはのびのびと生活して頂けるように努めています。	入居前には利用者が過ごしている自宅や入院先の病院に出向き面会し、家族や以前のケアマネジャー、看護師から情報を得て書面にまとめて共有しています。入居後は関わりの中で知り得た思いは活動記録表へ記録したりミーティング時に話し合い思いの把握に繋げ、把握が困難な場合は仕草や表情を見て本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報を伺って共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日々の状況を把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの中で寄り添いながら本人の思いやご家族からの情報をもとに職員の意見も取り入れながら介護計画を作成しています。	利用者や家族の意向にそった介護計画を作成し、初回は3カ月、その後は6カ月を基本に見直しをしています。毎月会議の中で計画の評価を行い状況に変化があればその都度見直しをしています。見直しにあたっては評価と再アセスメントを行い、利用者や家族の参加を得てサービス担当者会議を開催し、必要に応じて往診時に医師の意見を聞き計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを毎月行っているなのでその都度職員間で情報交換をして介護計画の見直しに活かしています。		

グループホーム このみ(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時など、出来得る限り面会に行き、関係を断ち切らないように、柔軟な対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・消防教育機関など、訪問して関わりをもって頂いていますがコロナ禍で2月よりは自粛しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のご家族の希望でかかりつけ医を決めて頂いています。かかりつけ医と連携し適切な医療が受けられるよう支援しています。	入居時に希望のかかりつけ医を聞いており継続している方は家族対応で受診しています。ホームのかかりつけ医は月2回の往診があり、直接医師に24時間連絡可能で指示をもらっています。専門医への受診は家族やホームで対応し、必要や希望に応じて歯科の往診や訪問マッサージを利用している方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から利用者の日々の健康状態について情報を伝え、利用者の変化等があれば看護師に伝えて早めの対応ができるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には面会に行き安心して治療して頂けるよう支援しています。病院関係者とは情報交換を行い早期退院に向け受け入れ体制を整えています。しかしコロナ禍で2月からは面会は自粛しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については早い段階から利用者の状態の変化にあわせて何度も家族と話し合いを行い思いに寄り添えるよう努力しています。医療との連携にも努力しています。	入居時にホームでの看取り支援について常時医療が必要な場合は難しい事等の支援出来る事出来ない事を説明しています。食事の形態をとろみやミキサー食で提供しても摂取が難しくなって来た場合は医師から家族に説明してもらいホームから意向の確認をし今後の方針を決めています。病院や療養型施設に転居する方もいますが、ホームで看取り支援する際は職員と話し合いを行い、家族に面会を多くしてもらえ等協力を得て支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの中で話しあったり、初期対応など落ち着いて実践できるように心がけています。		

グループホーム このみ(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練は行っています。地域との協力体制は徐々に構築されています。	消防訓練を行う際は通報訓練や水消火器の使い方を学んだり、水害を想定し可能な利用者と一緒に2階に避難しています。備蓄については水や缶詰め等食料の備蓄やランプや水タンク、カセットコンロ等備品を準備しています。今年度の訓練はまだ出来ていない状況です。	今後夜間想定での訓練を予定しており実施と共に訓練は昼夜想定で年に2回実施する事を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念をもち命令的な言葉にならないよう言葉使いや口調に配慮しています。	ミーティングの際に利用者は目上の方であり尊敬の念を持ち、言葉掛けに配慮し語尾や否定しない事等を管理者は職員に伝えていきます。崩れない程度に方言を交えた話し方をしており、呼称は基本苗字とし、声のトーンや耳元で話をする等の配慮をしています。また希望があれば入浴の際は同性介助での対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴する姿勢をもって利用者が自由に言いたいことが言える環境を作るよう努力しています。自己決定することが難しい方には簡単な選択ができるよう工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて支援しています。散歩や買い物など外出したい方がいれば支援しレクリエーションでも何をしたいかご希望に沿って行っています。しかしコロナ禍で2月より外出は自粛しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望に沿って散髪をしたり、着る服を選んだりおしゃれができるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好みの食事を食べて頂けるよう努力しています。	食事は厨房でこれまで業者に調理を依頼し盛り付けられた物が届いていましたが、9月より業者の献立にそって食材が届きホームの職員でご飯と味噌汁を作り湯煎調理と合わせて提供しています。献立には鰻等の行事食や栗ご飯等旬の物が配慮されており、利用者には下膳やテーブル拭きに携わってもらい職員と一緒に同じ食事を食べています。おやつでたこ焼きやホットケーキを作ったり、コロナ禍以前は外食に行ったり弁当を取り駐車場で食べる等の支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを聞いて、こまめな水分補給をして頂いています。適切な食事が確保できるよう、食事形態を変えたり工夫をしています。		

グループホーム このみ(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きが出来る方にはして頂いています。義歯の方には夕食後は必ずして頂き洗浄して頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握して共有しています。定期的声かけして、トイレで排泄ができるように支援しています。	時系列で記録出来る毎日の活動記録に排泄チェックを行いパターンを把握し、一人ひとりに合った支援方法やパッドの大きさ等排泄用品の選択をカンファレンスで話し合い、現状を維持出来るよう支援しています。状況により2人介助で日中はトイレ誘導を行ったり、夜間は状況に合わせてポータブルトイレを使用する方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無や状態を確認して、共有しています。こまめな水分摂取をして頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番は決めず、その日の状態に合わせて入浴して頂いています。	入浴は週に2回日中の時間帯で声掛けをし入ってもらっており、希望があれば回数を増やすことが可能です。入浴拒否の方には声掛けを工夫したり、家族の協力を得ながら支援し無理の無いよう対応しています。座った状態で湯船に入ってもらえる昇降機で入浴を支援する方やシャワー浴等一人ひとりに合った支援に努め、季節の柚子湯をする事も楽しんで頂いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせて休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自個別に薬を分け、服薬時にはその都度確認し、声を掛け合いながら服用して頂いています。薬の変更時は必ず情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の洗濯物をたたんで頂いたり、テーブルを拭いて頂いたりしています。一人ひとり出来ることを楽しく継続できるように支援しています。		



グループホーム このみ(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご希望に沿って、おやつを食べに行ったり、散歩に出かけています。 外出できない方には寄り添いを大切にしています。 しかしコロナ禍で2月からは外出を自粛しています。	コロナ禍以前は気候が良ければ近くの遊歩道への散歩や買物、おやつを食べにファミリーレストラン、ドライブに出掛けていました。また花見に行ったり、個別の外出や家族の協力を得て自宅に帰る方もいましたが、外出が難しい状況の時は日常の中でゴミ出しや洗濯物の取り込み、玄関先での外気浴の支援に努め、現在はドライブや少しの散歩に出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力で、少額のお金をもっておられる方がいます。玄関前の自動販売機でジュースを購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望に沿って支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は季節を感じられる飾り付けなどを利用者と一緒に作成しています。	季節毎の手作り作品を利用者と一緒に作成したり、七夕の笹飾りやクリスマスツリー等の飾りで季節を感じてもらっています。リビングのテーブルや座席配置は利用者の関係性を考慮したり、ソーシャルディスタンスを保てるよう努めています。感染症用に消毒噴霧器を置いたり、エアコンの風向きに配慮し利用者の体感を聞きながら温度調整し、掃除は毎日日中に行い可能な際は利用者にごみ集め等に携わってもらっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時その時の利用者の状態・関係などにより自由に配置換えをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものや、大切なものが持ち込まれており、本人が安心して暮らせるように配慮しています。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう伝え、利用者はテレビやソファ、冷蔵庫、扇風機、人形、時計等を持参し家族と相談し配置し、大切にしている家族の写真を飾っています。これまでの習慣に合わせて畳を敷いて布団で休む事も可能です。居室の掃除は週に2回と随時行い、リビング同様可能な際は利用者にごみ集め等に携わってもらっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一部の方ですが、洗濯物をたたんだり、その人らしく生活が送れるように心がけています。		